

TELEPHONES

**Canon**  
CANON DIGITALPHONE SYSTEM  
**DIGI16i / DIGI32i**

使用説明書  
データ通信機能編



## はじめに

このたびは《キャノン・デジタルホン・システムDIGI 16i/32iデータ端末接続アダプタ》をお買上げいただきまして、誠にありがとうございます。

《DIGI 16i/32i》でのデータ通信は、専用電話機にデータ端末接続アダプタを取付け、データ端末（パソコンや通信機能付きのワープロなど）を接続することによって実現します。

この使用説明書では《DIGI 16i/32i》でのデータ通信について解説しています。本書の構成は以下のとおりです。

### ご使用の前に

データ端末接続アダプタの接続のしかたと、モデムの捕捉方式を解説しています。運用の前に目を通しておいてください。

### 機能および操作

データ通信を行うときの、専用電話機側の操作を解説しています。電話機種別やフレキシブルキーアサイン等の表記方法は、《DIGI 16i/32i》使用説明書に準じています。

### 制御コマンド

《DIGI 16i/32i》がサポートしている制御コマンドについて解説しています。通常は制御コマンドを操作する必要はありませんが、より高度な使いかたをする場合の参考資料と考えてください。

なお、モデムプール方式のときに使用するモデムの使いかたとデータ端末側の使いかたについては、それぞれの機器に添付されている使用説明書をご参照ください。

本製品は、《キャノン・デジタルホン・システムDIGI 16i/32i》（第1種 正規装置）のオプションです。本オプションを使用した場合、システムの適合レベルは以下の通りです。

《キャノン・デジタルホン・システムDIGI 16i/32i》のシステム…第1種 正規

なお、本オプションを使用すると、《キャノン・デジタルホン・システムDIGI 16i/32i》は第1種情報装置（商工業地域において使用されるべき情報装置）になり、住宅地域またはその隣接した地域で使用すると、ラジオ、テレビジョン受信機等に受信障害を与えることがあります。取扱いには特にご注意ください。

本製品は、外国為替および外国貿易管理法の規定による戦略物資等規制対象品に使用されるものです。従って、日本国外へ輸出する場合または日本国外へ持ち出す場合は、同法に基づく日本政府の輸出許可が必要となります。

# もくじ

## ご使用の前に

データ端末接続アダプタの接続のしかた .....	5
《DIGI 16i/32i》でのデータ通信 .....	6
(1) モデムブール方式 .....	6
(2) モデムレス方式 .....	7

## 機能および操作

モデムブール方式によるデータ通信の準備をします (モデム補捉) .....	8
データ端末から自動発信を行います (自動発信) .....	9
専用電話機から発信を行います (手動発信) .....	10
内線相互通話をデータ通信へ切替えます (通信切替) .....	11
データ端末に自動応答させます (自動応答) .....	12
専用電話機で応答します (手動応答) .....	13
データ端末とアダプタの通信条件を設定します (通信条件の設定) .....	14

## 制御コマンド

制御コマンド .....	17
ATコマンド .....	17
A/ .....	17
A .....	17
D .....	17
E .....	18
F .....	18
H .....	19
O .....	19
Q .....	19
S .....	20
V .....	20
X .....	21
Z .....	21
コマンド応答メッセージ .....	22
レジスタ .....	23

V.25bisコマンド .....	25
CIC .....	25
CON .....	25
CRN .....	25
DIC .....	25
ECH .....	26
NWL .....	26
RST .....	26
+++ .....	26
コマンドインディケーション .....	27
主な仕様 .....	28

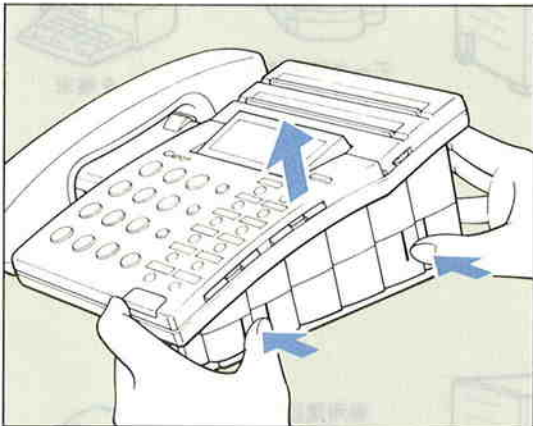
## データ端末接続アダプタの 接続のしかた

### データ端末接続アダプタの取付けかた

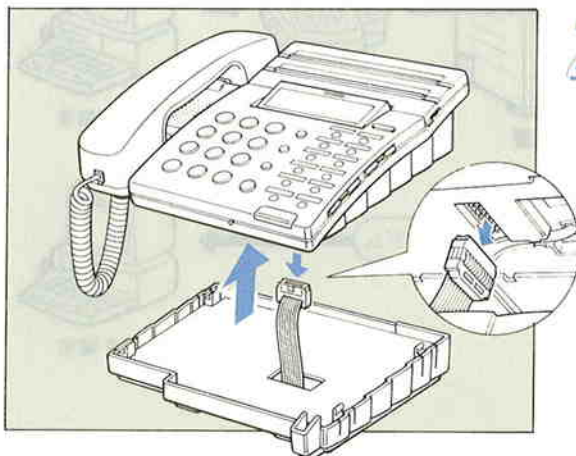


アダプタを取付ける前に、データ端末接続アダプタのケーブルを電話機のコネクタに接続してください。

### データ端末接続アダプタの取外しかた



1 データ端末接続アダプタは図のように矢印で示す部分を押しながら取外してください。



2 アダプタを外したら、次に中央にあるケーブルをコネクタから抜いてください。

## 《DIGI 16i/32i》でのデータ通信

《DIGI 16i/32i》でのデータ通信機能の方式としては、以下に示す2種類があります。

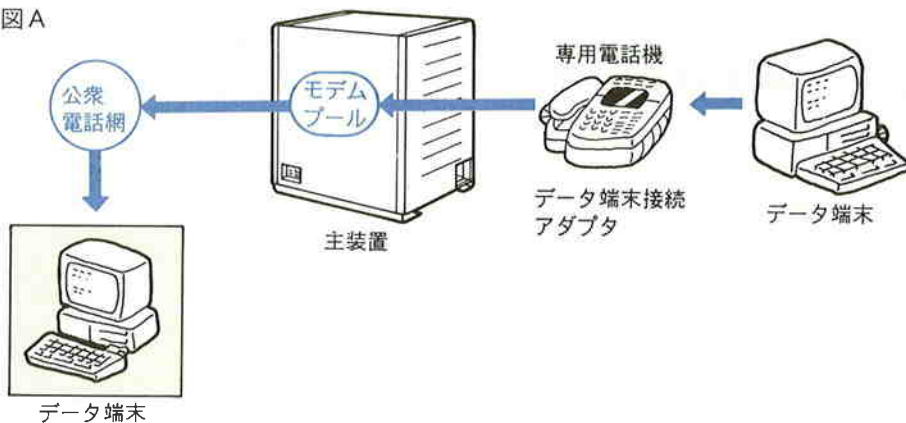
### (1) モデムプール方式

公衆電話網を経由したデータ通信では、端末ごとにモデムを接続する方法が一般的ですが、《DIGI 16i/32i》では、主装置に接続されているモデムを使用することができます(下図A)。端末ごとにモデムを用意する必要がなく、それぞれのデータ端末がモデムを共用することができます。これをモデムプール方式と呼びます。

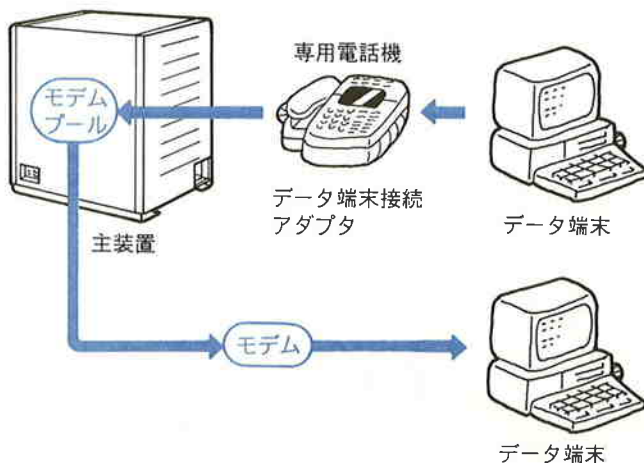
一般単独電話として内線にモデムを介して接続されているデータ端末との通信(下図B)でも、モデムプール方式は有効です。

モデムプール方式で使用できる制御コマンドは、接続されているモデムの仕様に基づきます。

図A



図B



### メモ

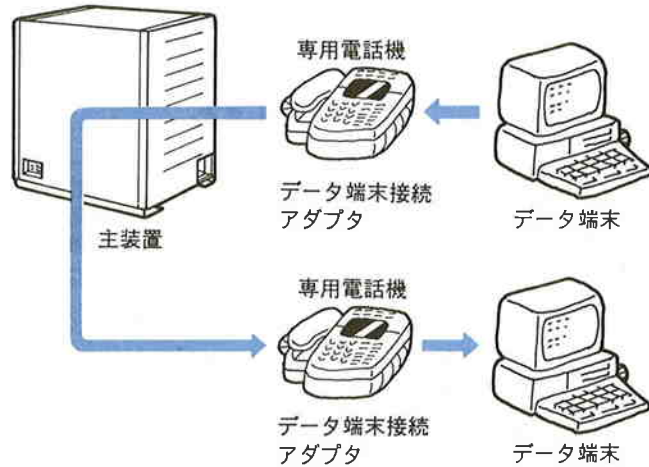
◇モデムプールを使用する場合は、データ設定が必要です。詳しくは工事保守店にご相談ください。

(2) モデムレス方式

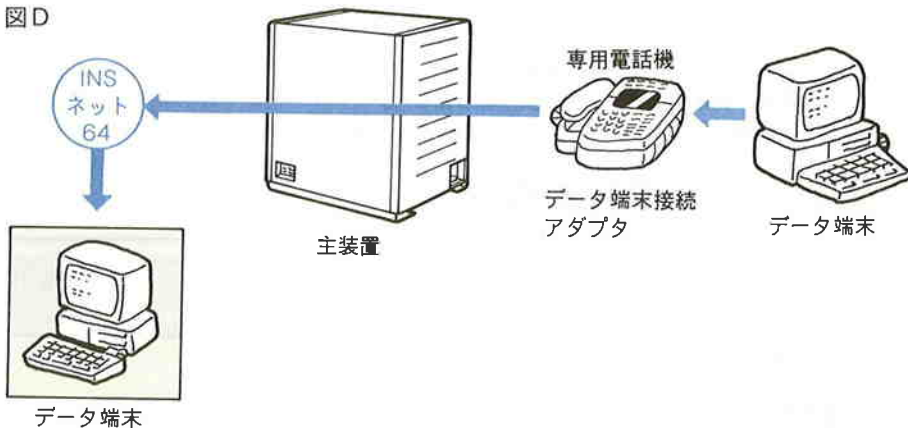
内線相互のデータ通信（下図C）ではモデムを必要としません。この場合に使用できる制御コマンドはP.17で解説しています。《DIGI 16i/32i》では、ATコマンドとV.25bisコマンドに対応しています。

ISDN回線（INS ネット 64）に接続されているデータ端末との通信（下図D）でも、モデムは必要としません。ただし相手の端末はV.110に準拠した非同期端末でなければなりません。

図C



図D



## モデムプール方式による データ通信の準備をします



データ設定

### モデム捕捉 **F118**

モデムプール方式 (→P.6) で発信する場合は、発信に先だってモデムを捕捉する必要があります。モデムの捕捉は専用電話機からの操作で行います。

### モデムの捕捉のしかた

<p>データ</p> <p>1</p>	<p>データ ボタンを押します。</p>	<p>データ</p>
<p>① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ * #</p> <p>2</p>	<p>モデム番号 (60、61 または 6*) をダイヤルボタンを使って入力します。</p>	<p>データ 6*</p>
<p>データ</p> <p>3</p>	<p>モデムが捕捉されます。 データ ボタンのランプが点灯します。</p>	<p>通信中 6* モデム セツク</p>
<p>— モデム番号 —</p> <p>60 …… モデム0を捕捉 61 …… モデム1を捕捉 6* …… 空きモデムを捕捉</p>		

### メモ

- ◇モデム捕捉状態ではデータ通信の自動着信も可能です。
- ◇モデムの捕捉は、発信先ごとに行う必要はありません。
- ◇モデム番号は変更することができます。詳しくは工事保守店にご相談ください。

### モデムの解除のしかた

<p>データ</p> <p>1</p>	<p>データ ボタンを押すとモデムが解除されます。</p>	<p>12/25 10:25 AM 内23</p>
<p>データ ボタンのランプが消灯します。</p>		

## データ端末から自動発信を行います



### 自動発信 **F118**

この機能は、データ端末から通信ソフトなどを利用して発信する機能です。モデムが捕捉されていればモデムプール方式（→P.6）で発信し、捕捉されていなければモデムレス方式（→P.7）で発信を行います。

データ端末側の操作については、お使いのデータ端末や通信ソフトの使用説明書をご覧ください。

- 専用電話機の「データ」ボタンのランプは、データ端末からの発信を検出すると点灯し、相手と接続が完了すると点滅を開始します。通信が終了すると消灯します。

### メモ

- ◇データ通信が終わった場合、通常はデータ端末からの操作によって通信を切断しますが、専用電話機の「データ」ボタンを押して切断することもできます。
- ◇モデムプール方式でのデータ通信中に端末からの操作で切断を行う場合は、モデム側でER信号がONからOFFに変化したときに回線を切断する設定を行っておく必要があります。詳しくはお使いのモデムの使用説明書をご覧ください。

## 専用電話機から発信を行います



### 手動発信 **F118**

この機能は、専用電話機からダイヤルして発信する機能です。モデムレス方式（→P.7）でだけ動作します。

### 発信のしかた

<p>データ</p> <p>1</p>	<p>「データ」ボタンを押します。</p> <p>相手と接続が完了するまで、「データ」ボタンのランプは点灯しています。</p>	<p>データ</p>
<p>① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ * 0 #</p> <p>2</p>	<p>電話番号をダイヤルします。</p> <p>相手が応答すると通信が行われます。 接続が完了すると「データ」ボタンのランプが点滅します。</p>	<p>通信中 034</p>

### メモ

- ◇データ通信が終わったとき、通常はデータ端末からの操作によって通信を切断しますが、専用電話機の「データ」ボタンを押して切断することもできます。
- ◇INSネット64に接続されているデータ端末と通信するときは、操作2で相手の電話番号をダイヤルする前に、0を入力します。

## 内線相互通話をデータ通信へ切替えます



### 通信切替 **F118**

専用電話機による内線相互通話の状態から、通話中にデータ通信に切替えることができます。内線相互のモデムレス方式(→P.7)でだけ動作します。

## 音声通話からデータ通信への切替のしかた

通話中。

<p>データ</p>	<p>1</p> <p>[データ] ボタンを押します。</p> <p>通話中の相手にも、[データ] ボタンを押してもらいます。</p>	<p>内線 内34</p>
	<p>2</p> <p>端末から AT コマンドの "ATA" または V.25bis コマンドの "CON" を入力します。</p> <p>通話中の相手にも同じ操作をしてもらいます。</p>	
	<p>3</p> <p>通話中になったことを確認してから受話器をもどします。</p> <p>データ通信に切替わります。</p>	<p>通信中 内34</p>

### メモ

◇この操作は通話中の相手の内線が同じ操作を行う必要があります。

## データ通信から音声通話への切替のしかた

データ通信中。

	<p>1</p> <p>受話器をとります。</p>	<p>通信中 内34</p>
<p>データ</p>	<p>2</p> <p>[データ] ボタンを押します。</p> <p>音声通話に切替わります。</p>	<p>内線 内34</p>

### メモ

- ◇データ通信を音声通話に切替える場合、相手が受話器を置いているときは、相手の電話機の [データ] ボタンのランプが消灯し、通常の内線呼出音が鳴ります。
- ◇データ通信中に受話器を置いたまま [データ] ボタンを押すと、通信および通話は切断されます。

## データ端末に自動応答させます



### 自動応答 **F118**

この機能はデータ端末側に自動応答させる機能です。専用電話機側の操作は必要ありません。また、モデムのは捕捉は自動的に行われます。

データ端末側の操作については、お使いのデータ端末の使用説明書をご覧ください。

- 専用電話機の **データ** ボタンのランプは、データ端末からの着信を検出すると速い点滅を行い、相手と接続が完了すると遅い点滅となります。通信が終了すると消灯します。

### メモ

◇データ通信が終わると、通常はデータ端末からの操作によって通信を終了しますが、専用電話機の **データ** ボタンを押して切断することもできます。

◇アナログ外線（INSネット64以外の外線）からの着信に対してデータ通信を行う場合は、専用電話機に対してダイレクト・イン・ライン（《DIGI 16i/32i》使用説明書P.103）の着信指定が必要です。詳しくは工事保守店にご相談ください。



## 専用電話機で応答します



### 手動応答 **F118**

データ通信の着信があったときに、データ端末でも応答できますが、専用電話機のボタンを操作してデータ通信を行うこともできます。

### 切替のしかた

	1	<p>データ着信音が鳴ります。</p> <p><b>データ</b> ボタンのランプは速い点滅を行います。</p>	データ 内34
	2	<p><b>データ</b> ボタンを押します。</p> <p><b>データ</b> ボタンの通信が始まります。 <b>データ</b> ボタンのランプは遅い点滅を行います。</p>	通信中 内34

### メモ

◇この機能はモデムブールを使用する場合は動作しません。ただし、**データ** ボタンを押せば着信音は止まります。また、この場合の着信音は内線相互通話およびISDN 着信時の音とは異なります。

# データ端末とアダプタの 通信条件を設定します



## 通信条件の設定 **F118**

この機能はデータ端末とアダプタ間の通信条件を設定するものです。  
モデムレス方式のデータ通信（→P.7）を行う場合に、あらかじめ設定しておく必要があります。  
操作は専用電話機から行います。

データ	データ ボタンを押します。	データ
	1	
	ダイヤルボタンの#を押します。	データ ツクシ スピード 9600BPS
2		
	通信速度を設定します。	データ ツクシ スピード 9600BPS
3	選択内容 300bps    2400bps 600bps    4800bps 1200bps   9600bps	
	ダイヤルボタンの#を押します。	データ データ 7ビット
4		
	データ長を設定します。	データ データ 7ビット
5	選択内容 5ビット    7ビット 6ビット    8ビット	
	ダイヤルボタンの#を押します。	データ ストップビット 1ビット
6		



▼ 音量 ▲

7

ストップビット長を設定します。

選択内容

1ビット  
2ビットデータ ストップビット  
1ビット

8

ダイヤルボタンのⓂを押します。

データ パリティ  
EVEN

▼ 音量 ▲

9

パリティを設定します。

選択内容

EVEN  
ODD  
ナシデータ パリティ  
EVEN

10

ダイヤルボタンのⓂを押します。

データ タイムアウト  
30sec

▼ 音量 ▲

11

通信タイムアウト時間を設定します。







選択内容

ナシ 1min  
2sec 2min  
10sec 4min  
30sec 8minデータ タイムアウト  
30sec

12

ダイヤルボタンのⓂを押します。

データ セットアップ  
AT

	13	<p>接続手順を設定します。</p>	<p>選択内容</p> <p>AT V.25bis</p>	<p>データ セットアップ</p> <p>AT</p>
	14	<p>ダイヤルボタンのⓂを押します。</p>	<p>データ ER セットアップ</p> <p>DTE</p>	
	15	<p>ER制御を設定します。</p>	<p>選択内容</p> <p>DTE ON</p>	<p>データ ER セットアップ</p> <p>DTE</p>
	16	<p>ダイヤルボタンのⓂを押します。</p>	<p>データ ネットワーク</p> <p>ナシ</p>	
	17	<p>速度整合を設定します。</p>	<p>設定内容</p> <p>アリ ナシ</p>	<p>データ ネットワーク</p> <p>ナシ</p>
<p>データ</p> 	18	<p>データ ボタンを押します。</p>	<p>12/25 10:25 AM</p> <p>023</p>	

## 制御コマンド

制御コマンドは内線相互のデータ通信のときにだけ使用します。  
 《DIGI 16i/32i》の制御コマンドは、ATコマンドとV.25bisコマンドに対応しています。  
 コマンドは半角文字で入力してください。

### ATコマンド

**A/** ひとつ前に実行したコマンドを再び実行します。

書式 A/

解説 相手が話し中だったときのリダイヤル等で使用します。  
 頭にATを付ける必要はありません。  
 入力後のCR（キャリッジリターン）は必要ありません。リダイヤル時にCRを入力すると発呼中断となります。  
 ひとつ前に入力したコマンドがコマンドバッファオーバーフローだった場合には、再実行はされず、“ERROR”のコマンド応答メッセージを返します。

例 (直前にATD3758 - 2111 を実行していた場合)  
 A/によって再び3758 - 2111ヘダイヤルします。

**A** データチャンネルを捕捉し、応答状態（キャリア待ち）となります。

書式 ATA

解説 手動応答にセットされている場合に、着信呼に対して応答するために使用します。

**D** 指定した電話番号へダイヤル発信を行います。

書式 ATD [パラメータ]

パラメータ	意味
0~9、#、*	電話番号
;	ダイヤルしたあと、コマンド入力状態になります。
P	これらのパラメータは無視されます。
T	
(スペース)	
,	
.	
@	
W	
!	
/	
-	

**解 説** ATDの後のダイヤルパラメータを省略した場合は、ダイヤルせずに応答状態（キャリア待ち）となります。

**例** ATD0W3758 - 2111  
 3758 - 2111へダイヤル発信を行います。  
 ダイヤル発信後、任意のボタンを押して相手を呼出すのを中断することができます。

**E** コマンドのエコーを選択します。

**書 式** ATEn

○初期値

n	意 味
0	コマンドのエコーを返しません。
①	コマンドのエコーを返します。

**解 説** コマンド入力状態のときに、データ端末から入力した文字を画面に表示する（コマンドエコー）かどうかを選択します。  
 通信ソフトでコマンドエコーありに設定されている場合は、この機能でエコーを返さないようにしないと、データ端末から入力した文字が二重に表示されてしまいます。

**例** ATE1  
 コマンドのエコーを返す状態にします。

**F** データのエコーを選択します。

**書 式** ATFn

○初期値

n	意 味
0	データのエコーを返します。
①	データのエコーを返しません。

**解 説** 通常状態のときに、データ端末からの送信データを画面に表示する（データエコー）かどうかを選択します。  
 n = 0が選択されるとフロー制御を行いません。つまり、“エコーを返す”としたときに受信データがあれば、そのデータの保証はされません。

**例** ATF0  
 データのエコーを返す状態にします。

**H** データ通信のオンフックを行います。

書 式 ATH

解 説 電話回線接続用のフックスイッチを制御します。  
データ通信中に+++を入力するとコマンド入力状態になります。このとき電話回線は接続されたままですが、この状態でHコマンドを入力すると電話回線を切ることができます。

例 ATH  
オンフック状態にします。

**O** オンライン状態にします。

書 式 ATO

解 説 データ通信中に+++を入力するとコマンド入力状態になります。この状態でOコマンドを入力すると、再度、データチャンネルを接続して、データ通信状態になります。

例 ATO  
コマンド入力状態から、再びデータ通信状態になります。

**Q** コマンド応答メッセージを返すかどうかを選択します。

書 式 ATQn

○初期値

n	意 味
①	コマンド応答メッセージをDTEに返します。
1	コマンド応答メッセージをDTEに返しません。

解 説 コマンド応答メッセージを画面に表示するかどうかを選択します。

例 ATQ0  
コマンド応答メッセージを画面に表示する状態にします。

**S** レジスタの照会と設定を行います。

書式 照会 ATSn?  
 設定 ATSn = <パラメータ>  
 nはレジスタ番号 (0~12) です。

解説 レジスタの内容は10進数で表示されます。

例  
 ATSn? : Snレジスタの値を照会します。  
 (レジスタのデータについてはP.24をご覧ください)  
 100 : Snレジスタの値が100だったことを示します。  
 (キャリア検出待ち時間が100秒の意味)  
 ATSn = 50 : Snレジスタに50を設定します。  
 OK : コマンドが実行されました。

**V** コマンド応答メッセージの表示形式を設定します。

書式 ATVn

○初期値

n	意味
0	コマンド応答メッセージを1~2桁の数字で表示します。
①	コマンド応答メッセージを文字列で表示します。

例  
 ATV0  
 コマンド応答メッセージを数字で表示します。

**X** コマンド応答メッセージの種類を選択します。

書式 ATXn

○初期値

n	意味
①	コマンド応答メッセージで0~4を選択します。
1	コマンド応答メッセージで0~4、7を選択します。

例

ATX0

コマンド応答メッセージ番号7 (BUSY) は表示しません。

**Z** 設定を初期化します。

書式 ATZ

解説

ATコマンドの設定を初期化します。

回線接続中にコマンド入力状態にしてATZを実行すると、回線は切断されます。ATZを連続コマンドとして使用する場合は、Z以降のコマンドは実行されません。以下に初期化状態を示します。( )内は各コマンドのパラメータです。

- コマンドエコーあり (E1)
- データエコーあり (F1)
- コマンド応答メッセージを返す (A0)
- コマンド応答メッセージは文字列 (V1)
- コマンド応答メッセージ種別 (X0)

●以下のATコマンドは無視します。

**P**

**T**

## コマンド応答メッセージ

コマンド応答メッセージには以下のものがあります。  
 コマンド応答メッセージを数字で表示するか文字列で表示するかはVコマンドで選択します。

数字	文字列	意味
0	OK	コマンドが実行されました。
1	CONNECT	回線を通して相手と接続できました。
2	RING	着信がありました。 自動着信時は1度だけ表示します。手動着信時は着信音と同じタイミングで表示し続けます。
3	NO CARRIER	回線が切断されたり、相手の応答がないときに表示します。
4	ERROR	コマンドエラーのとき表示します。
7	BUSY	相手が話し中だったときに表示します。 (Xコマンドでn=1のときだけ表示可能)

### メモ

- ◇非同期で通信しているときは、Vコマンドで文字列を選択するとコードの前後にCR（キャリッジリターン）とLF（ラインフィード）が付き、数字を選択すると数字の後にCR（キャリッジリターン）が付きます。
- ◇複数のコマンドがまとめて入力されていても、返す応答メッセージは1つです。
- ◇複数のコマンドがまとめて入力されると入力順に1つずつ実行しますが、エラーが途中にあると、それ以降は実行せず、“ERROR”のコマンド応答メッセージを返します。
- ◇コマンド実行中はコマンドを受付けません。次のコマンドはコマンド応答メッセージが返ってから実行してください。

## レジスタ

ATコマンドでのレジスタの機能を解説します。  
レジスタの設定・変更はSコマンドで行います。

### S0 手動着信／自動着信の切替

[範囲] 0/1

[初期値] 0

[解説] 0で手動着信、1で自動着信が設定されます。  
2以上の値を設定すると1を設定し、“OK”のコマンド応答メッセージを返します。

### S1 読出し用のリングカウンタ

[範囲] 0/255

[初期値]

[解説] 着信中は255、それ以外は0を返します。

### S2 エスケープコードの設定

[範囲] 0~127

[初期値] 43 (+)

[解説] エスケープコードのアスキー値を設定します。  
128以上の値を設定するとエスケープコードが使用できなくなります。

### S3 CR (キャリッジリターン) コードの設定

[範囲] 0~127

[初期値] 13

[解説] キャリッジリターンコードのアスキー値を設定します。  
キャリッジリターンはコマンドラインターミネータおよびリザルトコードターミネータの両方に使用します。

### S4 LF (ラインフィード) コードの設定

[範囲] 0~127

[初期値] 10

[解説] ラインフィードコードのアスキー値を設定します。

### S5 BS (バックスペース) コードの設定

[範囲] 0~32, 127

[初期値] 8

[解説] バックスペースコードのアスキー値を設定します。

S7 キャリア検出待ち時間の設定

〔範囲〕

1～255 (秒)

〔初期値〕

〔解説〕

相手の応答を待つことができる最長の時間で、この値以内の秒数に相手からの応答がないと、“NO CARRIER” のコマンド応答メッセージを返し、切断を行います。

S12 ESC (エスケープ) コードのガードタイムの設定

〔範囲〕

0～255 (20ms)

〔初期値〕

50ms (= 1 秒)

〔解説〕

エスケープコードのガードタイムを設定します。

1 単位は 20ms (1/5 秒) です。

- 以下のレジスタは設定時、読出時ともに“OK”のみを返します。  
S6、S8、S9、S10、S11

## V.25bis コマンド

**C I C** 自動着信を可能にします。

書 式 CIC

解 説 DICコマンドを解除して自動着信ができるように設定します。

**C O N** オンライン接続の要求をします。

書 式 CON

解 説 データ通信状態にします。通話切替時に使用します。

**C R N** ダイヤル操作を実行します。

書 式 CRN <パラメータ>

パラメータ	意 味
0~9、#、*	これらのパラメータは無視されます。
(スペース)	
;	
,	
.	
\$	
P	
T	
F	

解 説 パラメータは最大37桁まで入力可能です。

**D I C** 自動着信を不可にします。

書 式 DIC

解 説 これが設定されると、CICが来るまで自動着信はしません。ただし、着信があったときにはデータ端末へINCインディケーション（着呼あり）を返します。

**ECH** コマンドエコーの有無を選択します。

書式 ECHn

○初期値

n	意味
0	エコーバックはありません。
1	エコーバックがあります。

**NWL** インディケーションの前にCR（キャリッジリターン）とLF（ラインフィード）を入れるかどうかの選択をします。

書式 NWLn

○初期値

n	意味
0	インディケーションの前に、CRとLFを入れません。
1	インディケーションの前に、CRとLFを入れます。

**RST** 機能をリセットします。

書式 RST

解説 設定を電源投入時と同じ状態（ROM値）に戻します。

**+++** データ通信回線を切断します。

書式 +++

解説 データ通信中に1秒以上データを出さずに“+”を1秒以内の入力間隔で入力して、以後1秒以上何も入力がなければ、回線を切断します。  
CR（キャリッジリターン）は入れないでください。

●以下のV.25bis コマンドは無視します。

**SET**

**RLD**

## コマンドインディケーション

V.25bisのコマンドインディケーションには以下のものがあります。

表示	意味
C F I (Call FAILURE)	発呼失敗の原因の表示です。 以下のパラメータを伴います。 AB : 回線未接続 CB : 発信直前に着信検出 ET : 相手ビジー NT : 応答なし
I N C (Incoming Call)	着信がありました。
I N V (Invalid)	コマンドエラーのとき表示します。
V A L (Valid)	コマンドが正しく実行されました。

# 主な仕様

電話機との接続形態		専用電話機の下部への はめ込み接続
D T E イ ン タ フ ェ ー ス	電氣的インタフェース	CCITT 勧告 V. 28
	論理インタフェース	CCITT 勧告 V. 24 - 100 シリーズ
	接続手順	ヘイズ AT コマンド方式、または CCITT 勧告 V. 25bis 方式
	通信速度	300~9600bps
	通信方式	全二重非同期
運用形態		<ul style="list-style-type: none"> <li>・データ通信と通話の同時使用は不可</li> <li>・モデムプール用モデムは自動発着信モードとする</li> <li>・モデムレス方式の発信は内線デフォルト固定とする</li> </ul>
電源		外部電源より供給
消費電力		5.5W
寸法		186mm (W) × 209mm (D) × 38mm (H) [突起部含まず]
重量		390g
付属品		RS - 232C ケーブル、AC アダプタ 使用説明書

\* 仕様は改良のため予告なく変更することがあります。